

社会的包摂と場所愛着からみた千代田区内の着座空間評価

－ 法政大学エコ地域デザイン研究センター －

目的 covid-19以降のニューノーマルな生活様式の模索やウォーカブルな都市として再生する機運の高まりのなかで、都市の外部空間の重要性が改めて注目されている。

ベンチや椅子などの着座空間は、外部空間の滞在性を高める上でも重要な要素であるが、それ以外にも都市における「社会的包摂」の実現や「場所愛着」の形成においても重要な役割を持つと考えられる。

千代田区は昼間流動人口が大きく、オフィスワーカーや観光来訪者などその属性も多様である。こうした多様な属性で社会的包摂を実現することや、多様な境界で構成される千代田区の魅力をプレゼンテーションし、その場所への愛着を醸成することは重要である。

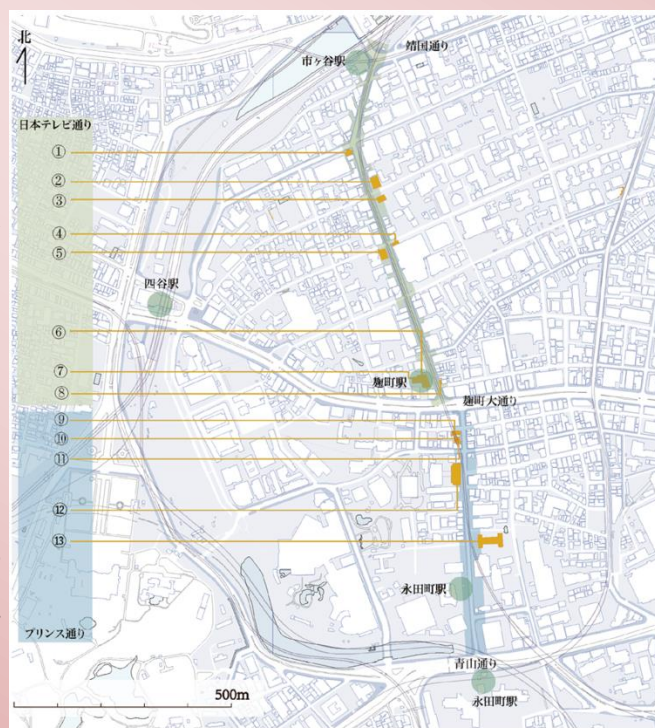
本事業では、千代田区の外部空間に設置されているベンチや椅子、設えとして着座が可能となっている空間を対象とし、社会的包摂、場所愛着の2側面から検証することで、都市計画・都市政策の策定に資する資料の提供を行うことをめざす。

研究内容・結果 本事業では、千代田区の番町・麴町地域を南北に貫くプリンス通り内8箇所と日本テレビ通り内5箇所の計13箇所の着座空間（図1）を調査対象とした。調査対象となった着座空間は（外部空間に設置されているベンチや椅子、設えとして着座が可能となっている空間であり、店舗内（有料）と店舗外（無料）が含まれる。

調査は予備調査（2022年10月17日～19日）としてプリンス通りと日本テレビ通りの街路立面図の作成と、各調査地で一定時間滞在する調査を行った上で、以下の2観点での調査と評価を行った。

（1）社会的包摂（「ショーケース」としての着座空間）：観察調査により、着座空間の構成要素を抽出し、多様な属性の利用が可能であるかと、そこでの活動の見え方を評価。

（2）場所愛着（「観覧席」としての着座空間）：予備調査に基づいて、快適に滞在が可能であることに加え、着座位置からの視点調査（可視範囲と要素配置）によりそこに居ることで境界の特徴や認識することができかどうかを評価。



調査対象

No.	名称	着座空間（建物、道路、緑）	緑の近景・中景・遠景	遠景	中景	近景
①	TINC GANA			遠景	中景	近景
②	Doutor (日本テレビ通り店)			遠景	中景	近景
③	上島珈琲店			遠景	中景	近景
④	Doutor (プリンス通り店)			遠景	中景	近景
⑤	daisy			遠景	中景	近景
⑥	PIZZERIA D'ORO (麹町中央通り方面)			遠景	中景	近景
⑦	PIZZERIA D'ORO (永田町方面)			遠景	中景	近景

視点調査（一部）

考察・まとめ 社会的包摂と場所愛着に着目して、着座空間について検討した。ウォーカブルシティの号令下で今後も着座空間の整備が進んでいくと考えられるが、その配置や形状に関しては、周辺環境との関係性が重要であると考えられる。調査では「有料型」と「無料型」で大きく特徴が分かれた。「有料型」と「無料型」では、着座者に偏りがあるが、双方が補完することで多様な属性が街路空間に表出しており、両者が存在することが「都市のショーケース」としての役割を果たしており、社会的包摂が実現している。一方、「有料型」と「無料型」で着座空間における空間認識（印象認識）に差があり、着座者の属性に偏りがあることを考慮すると、与える場所の印象が属性によって異なることが考えられる。これは「場所愛着」の観点からは好ましいことではない。どのような要素が認識されることが場所愛着に結びつくのかについては更に検証の必要がある。